



世話盡第四目錄

十五 體用之事



十六 付句嫌物

十七 打越嫌物

十八 二句嫌物

十九 三句玄物

二十 五句隔物

廿一 七句隔物

廿二 面嫌物

廿三 折嫌物

高句敷之事

廿五 淋滑制法之事

廿六 切字之事

廿七 賦物之事

廿八 淋滑和漢之事



世話盡卷第四 皆虛述

十五 體用之事

居於之體

宵戸 障子 格子 玄關 門

屋祿 屋敷 築地 書院 戸

後内 廣間 二階 欄干 家

天井 敷卷 卷取 座敷 窓

廊下 風呂 湯屋 蔀 倉

屋 宿 宅 里 城

軒 垣 薨 棟 壁

床 亭 棚 樓 隣



鹿 廁 尾

同用

麩 芥面 麩海 坪之内

蘆 田 密布 電爐

山 藪之辨

山 尾上 高根 嶽

巴 洞 岨 藪坂 谷

鳴 味

同用

滋 杉木 柳 炭電

後山 藪

山 柏 山 梨 赤 藪 山 姥 山 姥

山 人 山 五 関 海 瀬 寺 小 嶋

松 嶋 浮 嶋 小 嶋 畑 山 島 藪

多 士 溪 間 葛 城 瀧 川 九 折

同用

鶴 島 雪 山 山 躰 山 鳥 薪

丸 木 五 燈 猿 嶋 三 嶋

淡 海 瀧 本 曾 瀧 於 麻 瀧

川 嶋 三 福 光 吉 嶋 奥 小 嶋 奥

松 人 炭 燒 小 嶋 嶋 小 嶋 嶋

物 瀧 瀧 津 川 岩 橋

水室 みづむろ 水邊 みづのへ 之體 のたい

浦江 うらえ 津 つ 濱 はま

海 うみ 渚 しづ 灣 わん 沖 おき 濱 はま

汀 てい 川 かわ 池 いけ 沼 ぬま 洲 す 洲 す

澗 ま 泉 いづみ 澗 ま 澗 ま 澗 ま 澗 ま

津 つ 澗 ま 澗 ま 澗 ま 澗 ま

同用

水 みづ 波 なみ 塩 しほ 清水 しみず 淡 あは

水 みづ 水室 みづむろ 同用 みづむろの 同用 みづむろの

同用 みづむろの 同用 みづむろの

浮木 うきぎ 舟流 ふねながれ 真蛙 まづ 塩屋 しほや

塩燒 しほやき 水鳥 みづとり 海人 うみびと 狗 いぬ 密 ひそ

浮桶 うきか 蛸壺 たこづか 下桶 したづか 茂 しげ 笈 ひし

埋桶 うめか 萍蓮 ふきあそ 薦 すす 菖蒲 あやめ

之類 これら 之類 これら 和布 わふ 之類 これら 綱 あし 釣 つり 靴 くつ

住吉神 すけの 橋 はし 放生 はなはな 痛 いた 痛 いた

松邊 まつへ 須 す 明石 あかし 清 しみず 清 しみず

難波津 なんばつ 三橋 さんばし 志 し 志 し 志 し

小橋 こばし 松橋 まつばし 後 のち 後 のち 後 のち

西井 さいい 月 つき の出 の 出 の 出 の

同非

龍波寺 志賀 住吉 佐野 渡
 沈麿上野 明石 邑 粟津 原
 松浦 姥 大井 白川 岡 洞川
 三津宮 天浮橋 三津川 月水
 舟之浮橋 軒の玉水 田之見
 苗代 菅屋 菅沼 嶋
 蛭硯水 水行水 袖行水
 河之海 布さ 以雲波 横川
 岩船 さら船 月有
 右神用いささハ三句はさそそ若
 一しつはししつらんも也はけを

やハ祈祈用用用祈とくし
 くをく用祈用 祈用祈とつ
 く祈もあれ祈と中に用とそ
 さも用と中に祈とそらもそと
 也用祈祈用と二と祈とそ
 又祈用のあきさつ祈と物と
 心付侍とくし

雜物之體用

花 吉野 散香 月 出晴 曇
 雪 消 積 白 郭 云 初 言 弓
 馬 系 琴 木 引 白 舟 糸
 笛 吹 物 而 之 篇 方 儀 之 皆
 祈 用 之 廣 故 之 計

我々皇より漸ば三五を以て自
然の准而可計也

花舟弓亦ハ神也

細註ハ用也

然而雜ニ神用を以てしとて
はきき二句又限三句又奇後
はともやハ用神とけし
神ハ用を付くたれ 用付
後付 因こ付はるる亦制也

用付と云ハ

花ハ香月ハ終付
多々嫌也他准之香終
後引ハ花月也時多琴也付
付と云云と云は是ハ花
神付也可知得

後付と云

是ハ大海ハ塵と云
らばと云世活の心と云

とぞららるる云ハ大海付らるる
大海より付らるる又金言耳
にさうと云相少くもわらるる金言耳
ハ耳ハ金言と付也又三句
目ハ金言付人三物也ハ御も言
も付くも六ヶ物也ハ御も言
も入ハ大海と金言と云ハ神
を以て用也塵と耳と云ハ御も
神を以て用也御も言ハ御も言
一ハ御も言ハ御も言也御も言
てかかろうと云也

同義の付と云

花ハ香 弓ハ美射
神ハ神 又香ハ花矢

的射弓神 神ハ神 又香ハ花矢
を以て用也御も言ハ御も言
用也御も言ハ御も言ハ御も言
御も言ハ御も言ハ御も言
御も言ハ御も言ハ御も言
御も言ハ御も言ハ御も言

何ぞぐ何ぞぞるど

いふいふいふ連 いふ言
二白也

古 古き 謀 謀計字 言 言字 濁 濁り 同

字 字 家 家 堀 堀 邊 邊

丹 丹 戸 戸 紅 紅葉 葉 葉

朱 朱 早 早 振 振 契 契 ぬ ぬ の の そ

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

あ あ の の む む り り の の 同 同 字 字 して

たどろふふむさうふ詳くふ

多の雲の霞のうらみの返

海片へ形見見字

顧見字改房電火七夕

月日竹後管左義兵玉緒

天川作瀬竹林寺お

虫多のまき常神玉鬼田苗代

早苗新田立字薪木樵又

物薰火たはれあて
立たそくれ流字月日

日次白正月月次月

み月多翅名取海しりてあしそ

眠寝起外洞神の落人泣

名虫中文字中蝶

媒立字馴あぬおれとたれあ

とたならありとたると

うらじか人なごがめそ

そのおまひそかるとおそ

あじとまの云

聞^き耳^{みみ}口^{くち}とて耳^{みみ}とて目^めとて

て^てとて心^{こころ}とて^{とて}とて^{とて}とて^{とて}とて

善^{ぜん}字^じ名^な取^とと^と又^{また}身^みと^とと^とと^とと^とと

行^ゆと^とと^とと^とと^とと^とと^とと^とと

洞^{どう}と^とと^とと^とと^とと^とと^とと

水^{みづ}と^とと^とと^とと^とと^とと^とと

表^{ひょう}と^とと^とと^とと^とと^とと^とと

見^みと^とと^とと^とと^とと^とと^とと

納^{なつ}と^とと^とと^とと^とと^とと^とと

涼^{りやう}と^とと^とと^とと^とと^とと^とと

志^しと^とと^とと^とと^とと^とと^とと

現^{げん}と^とと^とと^とと^とと^とと^とと

地^ちと^とと^とと^とと^とと^とと^とと

久^くと^とと^とと^とと^とと^とと^とと

引^ひと^とと^とと^とと^とと^とと^とと

言^{ごん}と^とと^とと^とと^とと^とと^とと

仙^{せん}と^とと^とと^とと^とと^とと^とと

勝^{しょう}と^とと^とと^とと^とと^とと^とと

字^じと^とと^とと^とと^とと^とと^とと

十九三句嫌物

同字日雲風山浦波

水道夜木草鳥歎

虫急旅言居暇述

懷憂神祇釋教衣類

子早振字玉山牛王 王昭君 祇王 明王 茶王

四天王明 豐明 月

花散散 散馬馬 馬木木 木

法法 法世世 世代代 代月月 月

大雨大海大原大津木 小野

小壇小 小言言 言

竹竹 竹田田 田

月月 月障障 障月月 月次次 次月月 月

天津天津 天津七七 七句句 句嫌嫌 嫌物物 物

巨折巨 巨智智 智三三 三句句 句去去 去地地 地

草草 草花花 花瓶瓶 瓶花花 花陰陰 陰花花 花虫虫 虫

言言 言口口 口人人 人蠶蠶 蠶水水 水山山 山子子 子竹竹 竹子子 子

木木 木玉玉 玉小小 小窓窓 窓小小 小

承承 承比比 比交交 交比比 比交交 交比比 比

女女 女比比 比交交 交比比 比交交 交比比 比

年来回来ひざり 天てん 寺てら 天てん 王わう

台山たいざん 天下一あめいち 忍字にんじ 依車いしゃ 雨あめ 雨あめ

石いし 碓うし 板いた 初はつ 夕ゆふ 夕ゆふ 夕ゆふ 夕ゆふ

各川かくがわ 月つき 綱目くわいめ 折目せりめ 折目せりめ 折目せりめ 折目せりめ

朝あした 朝あした 朝あした 朝あした 朝あした 朝あした

舟ふね 握にぎ 雪舟ゆきふね

二十五句嫌物

同季どうき 月つき 松まつ 田た 煙えん 夢ゆめ

枕まくら 竹たけ 舟ふね 衣い 洞どう 舟ふね

舟ふね 石いし 田た 月つき 月つき 月つき 月つき

月つき 次つぎ 月つき 月つき 月つき 月つき

松まつ 松まつ 松まつ 松まつ 松まつ 松まつ

松まつ 松まつ 松まつ 松まつ 松まつ 松まつ

松まつ 松まつ 松まつ 松まつ 松まつ 松まつ

二十七句嫌物

石いし 石いし 石いし 石いし 石いし 石いし

石いし 石いし 石いし 石いし 石いし 石いし

石いし 石いし 石いし 石いし 石いし 石いし

石いし 石いし 石いし 石いし 石いし 石いし

宿 やどり 屋字 宿屋 板屋 宿

戸 ハ也 戸名 一ノ戸也 井 井ノ宮 井ノ下

石 石ノ香 神ノ

花散 花ノ散 柳ノ散

松葉 松ノ葉 楊山 軒

年 年ノ也 春日 初

始 始ノ也 古 糸 妹

女 女ノ也 子 見孫

人 人ノ也 木 糸 糸

鳥 鳥ノ也 尺ニ 表也 一 魁 一 小 一 村 鳥

堀 堀ノ也 一文字 八訓 又 上 八也

う 又 八 数字 三三 十月 八也

三日月 三日月ノ也 三日月 表 又 冬ノ 三 表 三

三日月 三日月ノ也 三日月 表 又 冬ノ 三 表 三

三日月 三日月ノ也 三日月 表 又 冬ノ 三 表 三

三日月 三日月ノ也 三日月 表 又 冬ノ 三 表 三

三日月 三日月ノ也 三日月 表 又 冬ノ 三 表 三

根 根ノ也 居 後 真

八侍 八侍ノ也 前 古

之勢シキ 獸群シキ 水シキ 月シキ 米シキ 泪シキ

米砂糖シキ 寺シキ 天シキ 下シキ 天シキ

國シキ 東シキ 赤葉シキ 紅葉シキ

西シキ 村シキ 極山シキ 綱シキ

綱代シキ 人足シキ 寒シキ 漁シキ 元シキ

字シキ 右字シキ 左字シキ

酒シキ 霞シキ 波シキ 宋シキ 滴シキ 白シキ

上戸シキ 下戸シキ 老物シキ 猪シキ 庚シキ 行シキ

行シキ 都シキ 京シキ 九重シキ 洛中シキ 金シキ 金シキ

金シキ 鞭シキ 弓馬之道シキ 弓シキ 塙シキ 塙シキ

之類シキ 鴉シキ 餅シキ 紅葉シキ 桐シキ 木葉シキ

関シキ 人月シキ 雲シキ 眉シキ 下シキ 滴シキ 茶シキ

基シキ 尺八シキ 笛シキ 如來シキ 下シキ 字シキ

鹿シキ 鹿シキ 鹿シキ 鹿シキ 鹿シキ

三折燻物

王大君天子皇シキ 引合シキ 我シキ 君シキ

石シキ 家シキ 四シキ 店シキ 四シキ 多シキ 二シキ 八シキ

糸いと 多きとて 場ば 四ニハし訓テ 初はつ

物もの 始はつ 花はな 名な さね 本もと 葉は

池いけ 二ふた 名な 取と 二ふた 合あ 磯いそ 市いち 橋はし

濱はま び 四よ 物もの 命いのち 二ふた 鳥とり 獸けもの 二ふた 引ひ 合あ

犬いぬ 一ひとつ 犬いぬ 一ひとつ 犬いぬ 一ひとつ 戌いぬ 一ひとつ 合あ 針はり

くく 二ふた 針はり 二ふた 針はり 二ふた 針はり 二ふた 針はり

寺てら 一ひとつ 皇みかど 居い 一ひとつ 鷄とり 一ひとつ 鷄とり 一ひとつ 鷄とり

一ひとつ 刺さし 多おほ 一ひとつ 本もと 綿わた 付つ 多おほ 信しん 懸けん

之この 肉にく 二ふた 引ひ 合あ 尼に 公こう 一ひとつ 尼に 一ひとつ 比ひ 立た 尼に

一ひとつ 合あ 二ふた 合あ 二ふた 合あ 二ふた 合あ 二ふた 合あ

星ほし 一ひとつ 引ひ 合あ 四よ 也なり

邊へり 字じ 四よ 也なり 邊へり 字じ 四よ 也なり

年とし 四よ 也なり 年とし 四よ 也なり

名な 二ふた 折をり 二ふた 折をり 二ふた 折をり

湯ゆ 屋や 約やく 屋や 本もと 肉にく 二ふた 屋や 町まち

上うへ 齋さい 屋や 本もと 肉にく 二ふた 引ひ 合あ

也なり 六む 六む 六む 六む 六む 六む

也なり 六む 六む 六む 六む 六む 六む

也なり 六む 六む 六む 六む 六む 六む

也なり 六む 六む 六む 六む 六む 六む

宮殿 ミヤノ 殿上 テンジョウ 殿 テン 佛二 ハツニ

公仲 キウチュウ 念仏 ネンブツ 佛神 ハツカミ 赤肉 アカニク 友二 トモニ

友又二 トモマタニ 千字 センジ 四也 ヨシ 契只三 ケイジツ

引合四 ヒキアヒ 沼巴洋 ヌマバヤウ 三物 ミモノ 引合三 ヒキアヒ

小舟 コボネ 小町 コマチ 小舟 コボネ 小舟 コボネ

海小舟 ウミコボネ 小舟 コボネ 女一 メヒト 女一 メヒト 女一 メヒト

女一 メヒト 女一 メヒト 女一 メヒト 穗 ホ 四也 ヨシ

引合四也 ヒキアヒヨシ 茶一 チヤ 茶一 チヤ 茶一 チヤ

三葉 ミツバ 春風 ハルカゼ 柱一 ハシラ 柱一 ハシラ

二也 ニ 軍一 イクサ 第一 ダイイチ 第一 ダイイチ

蓮一 レン 蓮一 レン 蓮一 レン 蓮一 レン

堀二也 ホリニ 牡丹一 ボタン 牡丹一 ボタン

郭公 クワクウ 二也 ニ 蜜二也 ミツニ 蜜二也 ミツニ

也 ヤ 也 ヤ 也 ヤ 也 ヤ

也 ヤ 也 ヤ 也 ヤ 也 ヤ

也 ヤ 也 ヤ 也 ヤ 也 ヤ

也 ヤ 也 ヤ 也 ヤ 也 ヤ

名只ハニ也 伴ニ也 見一見 見一見

見極キ 妙ニヤ 月ニ斗ニテ

内文一 妙ニヤ 月ニ斗ニテ

内ニ云一 妙ニヤ 月ニ斗ニテ

内也 遠近ニ也 斗又 躍一

生熟ノ躍胸 踊脈ノ踊 行一

ホノ内ニ又一 下句ノ又 二也

和歌ニ和琴 和曲 狂歌 折檻

和歌ニ和琴 和曲 狂歌 折檻

和歌ニ和琴 和曲 狂歌 折檻

神のめりてあはれ ぬおれてあはれ

絶小神ニ物とゆふ 煙ニ香炉

風炉ニ香炉 目障物ぬふ

廿四句教之事

春路ニ三月つて五月まで色はば

あはれ 夏冬 神祇 新教

迷懷 哀傷 張 云常

山影 あり 居所 松竹

ホハニ句 吹しとく 三句まで色はば

乞と制を

正五 禮制之法之章

教之極終也教之法
のごとく四季之時を以て
方中業法送へし中一切を
季と終へしを以てし公
出く後必行尚物也挨拶
公之宿終目前之境也
前之方中業法送へし秘藏

禮具其家之先臨一也之景

物也之可有之 夫教之ハ

表裏相應也銘トス又ハ

之と云ふは其之其語曰

安之自挨拶之ハ教之

自也也介於終也之ハ

又他源之賦物也之ハ

教之也之可有之 先

安之と云ふは古哲之ハ

三十一

見又大形好吉る之中に於
て亦あら不常と云ふ又ハ
能た落ふ公相と安来工
吏して云出せらと見たり
愚子中まうぬ云ク
業子ハ佐保姫さびしめ
室風とさく扇のふ地か
愚之思くさわ姫と純を
一唯まこと能る物と云
然ハ何と云平好と云へき安

あり彼屠積と献を
者ハ末嫁十二三斗然小女
と云り亦悲げ白散一人を
と葺まハ一家は病あり一
家に乞食飲ハ一里は病は
まこと能る好業也然ハ乞
と云り小娘宣被治は能る
人平也思たり又暑氣に
扇と云いして云笑と除たり
寒暑あ痛のこし然ハ何
そを月と可不防乎疑

又奈重長と云ハ長ハ弟この
 早云ぬると銘書長ハ佐保
 昭之不實ぬると云々
 又重長同のつて凌ぐと云
 と歎文懐光と銘不志と長
 又云は重長ハ弟を長と云
 又のとも用と銘不 挨拶と
 又ハ田舎子と云宿中と云
 又と云不遠と云肝要と云也
 予正月七日或天台と云ハ某
 侍之茶汁と振舞と云

寺で云々云々云々云々
 弟と云麻おの切と云
 世人詞よと云く汁と云り又彼
 系之根中空空寂寂之法と
 以肝要と云法と云云と云く
 又云しハぬと云之挨拶ぬと云
 又云ハ茶汁と云め重長と云ハ
 又と云司と云ハ 又節と云ハ
 一辞二儀と云と云巧と云り
 愚地自慢之及教と云り
 又茶也名と云霍と云乃おと云

冷と地のあるは世男の中風所
 一節、時を此に於て、冷を言ふは、
 又二節、木葉之中に、霍香之
 白妙ありて、後を言ふは、
 唯つり、表の郭に於て、愛
 し、裏中に、彼葉之、回を感
 せり、又冷地之一節、地、震
 之、せり、亦、一節、
 人之癱瘓と、准つ、あ、名、辞、
 皆、世、人、の、志、と、云、り、表、の、地、之

揺るものと、案、も、る、に、物、は、去、冷、
 あり、陽、氣、發、馬、り、と、疑、ま、
 地、温、る、る、又、陰、氣、に、惑、
 夏、冬、准、之、又、風、倫、際、之、
 去、り、物、の、風、倫、際、之、
 又、冷、て、地、動、も、る、と、云、裏、
 左、廊、右、瘕、之、人、必、あ、る、
 ハ、冷、る、物、也、天、地、之、陰、陽、
 又、患、之、然、と、云、又、鶴、鶴、
 之、自、ら、と、在、已、惑、な、れ、
 子、が、教、白、云、之、
 〇三十八

じやあは法華の復經の文を
 然る居ては經を讀誦せしめ
 初まを彼友と同キ法華
 之華之字と云ふなりて文
 之字は法華の字に法華經
 うかひては復經と云ふなり
 也凡れは古哲之作はけり
 多之併其まのりてんとな
 へおろく也表ハ妙曲の勝る
 と感じ裏の懈怠するよ
 め尚友經と訪へらげおろ

ては唯老之博さふ任て感
 心不可勝計とくみあはる
 と可求者也 又時之一奥
 るとあは強く表裏と巧
 としあは及んは唯表に入
 るのみはつらむと云ひゆる然
 作らば物と世人自賢と惑
 又己之利はわかされてた
 と云ふ教を自慢し何乃
 ると云ふと千句一百万と
 云付く京都へのりて適く

二の撰書してハ集入るる名を撰
代はるるなりと自撰せり物
ハ又蝸牛之角のあつるひ等
し可慎く此物ハ毒白
不來物ハ毒也甚振肝
腑之後と求心胃と洗て
と云出下只根ハ頑魯者
撰之數白ハあつるの中
物也大打産と云安き物
撰と得んものと

脇白同前であつるの字
制を山敷水邊居取物ハ
もとと韻ハ云へし神祇
教と毒白ハ洗て用とく
毒白ハ毒物と服之銘トス
一第三之事にて毎撰
也もあつるハあつる
自然ハ色ハ白也
び一付取ハ大形也
之たをさうと云へ
撰と好毒白ハ高し

じつと題し

一之折の流るる十三の常一
まゝくし楊花のふりさかるとも
得る人し但年三すそへ各別
也此去書又至て秀る出
本あゝくらくし
一之折の二白月とて今くは表
と回あ其よる表のくく
た名月なり
一巻の白三る表とくく
さしく奇正流俗の意は

くきれぬくふよゆて多中しハ
すめくさつ出ら物也能
あつとと交あよせハ迷
懐も元教好之能と可
多者也古人もことくく
さらあはきくしとまり准て得
一十餘くらむあ鄙者か
き初末もくくは流俗るれ
あそ別あ因史野人のあ扱
あふくは唯あ人の戯言
あれも也故よ建教とせり

西の海よりらんをまわれば
 かく昔くわがらる月おはは
 らびあのみ海又あのみびてふ
 らむむのうもあそもく やいとま
中二のあ
 又ひと花のみあこり花
 又むもあそ とくま 一花を南
 花をひひもあそ たきに 又花ひ
 との南のあ あし 又むもあそ
 他准之可あそ あそ 又むもあそ
 るも あそ 又むもあそ
 一見の あそ 又むもあそ
 二句之内先 あそ 又むもあそ

必名句は慢ト又六付は
 又前後工事は紛て身
 一更大もとまわたり
 一用付後付 あそ 又むもあそ
別而 又むもあそ
は後 又むもあそ
は修 又むもあそ
く 又むもあそ
とく 又むもあそ
は田 又むもあそ
は初 又むもあそ
雪 又むもあそ
也 又むもあそ
は田 又むもあそ
は 又むもあそ
 又雜之物 あそ 又むもあそ
は 又むもあそ
は 又むもあそ
は 又むもあそ

物事のみことごとく物也
代准之

廿六切字之事

哉うやたりやそめり
しきぬド川ん
りさりさくく何なに進すすりりびと
いそ何なにあぞあぞくくさぞ
たどたどくく誰たれともあし
りかりかああかか下した知しらら面めん
切字の事古書に作らるるもの巧
術の上を教くこと世民の済む可
き事也

廿七賦物之事

上何かみ何下しも一字いち落おち野の

二字ふた返かへ音ね三字さん上かみ略りやく中ちゆう略りやく

四字よっし上かみ下しも略りやく五字ご上かみ中ちゆう下しも略りやく

一字いち借か音ね 二字ふた除のぞ篇ぺん 除冠のぞかん

他た添そへ 他た添そへ 巧たくま者もの前まへ以もつてて品しん

何なにれれ一字いち落おち野の 何なにれれ一字いち落おち野の

交まじ混まじ造つく之の賦物ふぶつハ定さだままるる文ぶん

字じととててももああららざざれれどど人ひと毎まいま

ゆゆくく云いふふ五ごヶがああもも不ふ限げん唯ただ矣や

句く三さん語ご何なに故ゆゑ其その真まこととと云いふ

何なに字じととああららざざれれどど人ひと毎まいま

あなうらやまはな物とるに

何茶

物に如月さうし物乃如朝

毛ハ如茶と云ふは其の中之何なるか
と云ふ事し准らるる上何を得る事也

餅何

一本や目もふむしと花乃春

毛ハ餅花と云ふは其の中之何なるか
下ニ至也毛ハ准而何下の何なるか

一字露歌

あざとく寝ぬらな花乃時

毛ハ寝と云ふは其の中之何なるか
可成り別の物ハ影し毛と云ふは
名と云ふは影し物ハあざとくと云ふ
下ニ至也餅花乃何なるか

くれ何と
びん何と

二字返音

あざとく寝ぬらな花乃時

毛ハ字中の字を返して作らるる
音と云ふは何なるか

三字下略

月ハと月乃月乃月乃

毛ハ字中の字を略して作らるる
字也中略上略准之四字上下略
中下略と云ふは何なるか
及有は略と云ふは何なるか

一字借音

白雪乃の額乃乃乃乃

毛ハ白雪中のけやうと云ふは
字と云ふは白雪中の字と云ふは

てもてまて秋又漢は年名
 と先へ云出あつて如く是名
 にもあつてもあつて但可依作
 之秋二四六八亦之物ハ各等分
 又可通用也喻ハ月雪等之
 物と五三もあつては也又月亦
 船教と通用まればあつて面
 又和ハ月とて書ハ又和之
 月と漢亦又一折ハ月二ツ
 ともあつて不可有之表裏各
 之各語と用と通用と云ふ

之物皆准之 又奈句和則一
 折之花漢よま之秋也
 又韻之字連歌之法又ハ如
 之はつちのりもあつて
 去方系去ハ字消息也又
 去ハ文字之不定之物之名亦
 不可用之

漢之作と事專辨言とあ
 るもハハ辨云と定ハ漢之
 句也辨語之漢ハ可也事
 勿論也其説句定に引ハ不違

